

特集

布袋座火災から受け継ぐ意志 暮らしを守る消防



—1943年。俱知安町の映画館で起きた『布袋座火災』をご存知でしょうか。

3月6日の火災は、全国的に見ても記録に残る大規模なもので、208名もの犠牲者を出しました。今年で80年を迎えたこの惨事を風化させないためにも、今月号の特集では当時の状況や現在の消防について紹介します。

決して繰り返してはならない
『布袋座火災』から80年

貴重な楽しみ、映画

戦時中の当時は、テレビが普及しておらず、娯楽といえば、ラジオか映画くらいのものでした。しかし、映画鑑賞ができる機会は貴重であつたため、3月6日の夜に開催された産業組合主催の映画会には、招待を受けた700名を超える町民が映画館の布袋座を訪れていました。



北2西2に所在した
当時の映画館『布袋座』

可燃性のフィルム

現在、映画館ではデータを再生することで上映されていますが、当時は映写機にフィルムを通すことで、映像が流れる仕組みでした。特に、昔のフィルムは燃えやすく、摩擦や静電気でさえも発火の原因となり得ました。

豪雪の町、俱知安

当時の俱知安は、除雪体制が整っておらず、建物の1階が雪で埋もれている状態も珍しくありませんでした。

布袋座には、出入口が一口所、非常口は五カ所ありましたが、発火場所が出入口付近であつたこと、除雪がされていない非常口があり、助けに向かった人たちが積もっていた雪をよけてもすぐには開けなかつたことから、多くの町民が逃げ場をなくしました。2階の窓から逃げることもできた人もいましたが、木造の建物であつたことも相まって、火の手がすぐにまわり、1時間ほどで建物が全焼、208名にものぼる死亡者を出した火災となりました。

俱知安消防の歴史

『布袋座火災』が起きた当時の消防は、どんな形態だったのでしょうか。俱知安消防の歴史と一緒に振り返ります。

当時の消防本部には、8名の常備員が務めており、井戸から水をくみ上げることのできるポンプ車も所有していました。しかし、この時代は道路の除雪がされておらず、冬は車が走ることができない状態でした。

布袋座火災の日、電話も普及していない時代であつたため、消防本部の屋上から煙が上がっている



1927年の消防

当時は、消防本部以外に、現在でいうところの「俱知安消防団」が組織されていました。彼らは警

防団」と呼ばれ、警察および消防の補助として、空襲や災害が起きた際には、町民の避難誘導や消火活動の手伝いを行っていました。当日は、いち早く駆けつけ、積もった雪で開けなかつた非常口の開放や避難の誘導などに尽力しました。消火後は、亡くなった人の運び出しにも協力をしました。

現在の消防団

現在は、全国的に見て消防団員は減少傾向にあります。俱知安では、常に定員を上回っている状態が続いています。その中には、



4月に行われた
消防団員訓練



俱知安消防史

1905（明治38）年7月

「私設消防組」を創設

1906（明治39）年11月

私設消防組を「公設消防組」に改組

1913（大正2）年9月

初の消防自動車を購入

1927（昭和2）年

消防本部庁舎建設

1936（昭和11）年4月

常備消防部を設置

1939（昭和14）年4月

消防組を「警防団」に改組

1943（昭和18）年3月6日

『布袋座火災』



1947（昭和22）年7月

「俱知安町消防本部」を設置

1947（昭和22）年9月

警防団を「俱知安消防団」へ改称

1954（昭和29）年

初の消火栓設置（上水道の通水による）

1960（昭和35）年7月

「俱知安消防署」を設置

1965（昭和40）年10月

役場庁舎に消防庁舎を併設、移転

1973（昭和48）年4月

羊蹄山ろく消防組合設立

俱知安消防団を「羊蹄山ろく消防組合

俱知安消防団」へ改称

1990（平成2）年1月

羊蹄山ろく消防組合消防総合庁舎が

落成

2018（平成30）年4月

羊蹄山ろく消防組合山岳救助隊が発隊

2022（令和4）年4月

俱知安消防団女性分団とニセコひらふ

分団を新設



小樽市を除く後志管内
初の女性消防士！

じん あやみ
「神 文美」です

＊ 消防士を目指したきっかけ

学生時代の部活動中に友人が倒れてしまい、そのときに駆けつけてくれた救急救命士の対応を見て、憧れたのをきっかけに、救急救命士や消防士に興味がわき、この道に進むことを決めました。

＊ 生年月日

平成 13 年 6 月 4 日（21 歳）

＊ 出身地

青森県青森市

＊ 学生時代の部活動

バレーボール（中学～高校）

＊ これからの目標

日々の訓練を通して、体力面が劣っていると感じているため、まずは訓練を頑張りたいです。

将来は、女性特有の柔らかさを生かした活動をして、一人でも多くの人に寄り添い、安心感を与えられる消防士になりたいです。

＊ 皆さんへメッセージ

町民の皆さんに親しまれやすく、近い存在になり、頼ってもらえるように頑張ります。

一緒に住みやすいまちづくりを進めていきたいと思っています。



ようこそ
倶知安町へ！

4 月に神文美さんと佐々木翔太さんの 2 名が消防署で採用されました！
災害のときに駆けつけてくれる心強い仲間が増えたので紹介します。



＊ 消防士を目指したきっかけ

中学校の社会科見学で、消防士の仕事を見学したことがきっかけでした。対応してくれた方がとても優しく「こんな消防士になりたい」と自分の憧れの存在となりました。

さ さ き しょうた
「佐々木 翔太」です



＊ これからの目標

早く先輩方に追いつけるよう、まずは筋力アップを目指します。

将来は、あのとき憧れた消防士のように優しく、親しみやすい消防士を目指し、消防署内外で頼られる人になれるよう頑張ります。

＊ 皆さんへメッセージ

町民になったり、消防士になったりということが、つい最近の話なので、早くこの町になじんで、よい活動ができるように頑張っていきたいと思います。

＊ 生年月日

平成 12 年 8 月 3 日（22 歳）

＊ 出身地

岩内町

＊ 学生時代の部活動

空手部（小学～大学）

布袋座火災から 80 年がたった今
～ 消防署長の思い ～



倶知安消防署
く ぼ ひろやす
署長 久保 宇泰 さん

3 月 6 日のあの日を
胸に刻んで

布袋座の火災が起きた「3 月 6 日」という日は、消防として、町民として、決して忘れてはいけない日だと思っています。また、町民にもこの事件のことを思い出してもらい、「冬は特に怖い」ということを再度認識してほしいと考えています。

当時からかなり年数が経過し、私たちを取り巻く環境は変わってきていますが、まずは火災を起こさせないことが大事です。万が一、起きてしまった場合には、誰一人として犠牲者を出さず、助けることが我々の使命であることを、この惨事から引き継いでいます。

毎年 3 月 6 日に
消防訓練を行う意味

消防では、昔から毎年「3 月 6 日」に消防訓練を行っています。1 日でもずれてしまったら、意味がないと思っています。消防士の我々が忘れないように、また、町民に改めて啓発する意味が込められている訓練です。

消防の新人は、はじめに避難訓練の計画などを行う「消防係」に配属することが多いです。理由の 1 つとして、この惨事を知ってもらいたいと考えているためです。

訓練は、小学校やスーパー、駅周辺など、さまざまな場所で実施しています。



今年の 3 月 6 日の夜に行われた
消防訓練、場所は東小学校

火災から命を守るポイント
逃げ道の確保を！

現在は建物の基準が厳しくなり、火災が起きても逃げ道が確保できていたり、燃え広がりにくい造りとなっています。しかし、家具や物の置き場を間違えると逃げ道がなくなるため、注意が必要です。

また、夏は通れても、冬は雪でふさがることあるため、除雪は自分と家族の命を守るために重要となります。

火災を防ぐためのポイント
火気取り扱い注意！

近年は、火を利用する機器が進歩し、火災の危険性は低くなっています。機器をきちんと使用すれば、火災は防ぐことができます。しかし、機器を使用する人が適当に扱ってしまったり、使い方を間違えてしまったりすることで、火災が起きてしまいます。日頃から火を使用する機器や火気の手扱いには、注意してください。